

安房国札番外観音霊場

観音堂縁起

曹洞宗 藤谷山 慈恩院

住職 寛道 記

〒294 千葉県館山市上真倉1709 ☎ 0470-23-7261 FAX 22-6577

御本尊様

本尊仏は、清国伝来の《聖観世音菩薩》と、佐渡渡来の《丈六聖観世音菩薩》の二体。
脇仏は、同じ清国伝来の《阿難尊者》です。

御本尊様にはそれぞれ縁起が伝えられている。

《聖観世音菩薩像》 高さ約1m 青銅製

《阿難尊者立像》 高さ約1m 木造乾漆製

《当山御開山耕雲珍龍大和尚》は、日清戦争の折大勢の従軍僧を従えて大陸に渡り日本における従軍僧の先駆者として多大の功績を残した。

日清戦争後、清朝よりその功績に対し中国の観音霊場三十三箇所内の第一番、浙江省舟山列島補陀落山に秘蔵され、洛陽の市価を高らしめていた《聖観世音菩薩像》と《阿難尊者像》の二体の霊仏尊像が贈られた。

後に《御開山耕雲珍龍大和尚》により著された「日清戦争従軍夢遊談」に此の事柄が細かく記されている。

此の二体の霊仏尊像が贈られた時、清朝より《御開山耕雲珍龍大和尚》に以下の言葉が添えられた。

『兩虎戦えば共に生きず、今日亞細亞が他国の誹りを受けぬのは、日清兩國が共に健全なればこそである。今兩國が互いに観世音菩薩の慈悲を帯して「水魚の交わり」を為すならば兩國は必ず繁栄するであろう。兩國の繁栄はそのまま東洋平和と繁栄を意味し、強いては世界平和と繁栄をもたらすことになる。今この兩霊仏尊像を貴僧に贈る所以は、貴僧が日本に帰られて景勝地をトとして此れを御祀りし、以て世の光となし給わんことを。』

此の二体の霊仏尊像は、後に明治天皇が御覧になられ殊の外御満悦なされたと伝えられる。
その後、兩霊仏尊像は《御開山耕雲珍龍大和尚》の自坊に奉安されていた。

大正十二年九月一日 関東大震災

その惨状は言語を絶する有り様で、ただただ目を蔽わしむるばかりであった。
《御開山耕雲珍龍大和尚》は幾万の被災者の霊を慰めんが為、且つ又、清朝との前約を果さんが為、館山の地をトとして御堂を建て兩霊仏尊像を御祀りするに至った。

館山市はあたかも東京から真南に位置し、文字通り“南面の仏徳”を以て鎮護の霊仏となっている。

《丈六大観世音菩薩像》

高さ1丈6尺 杉1木作り

製作 佐渡 親松佛巖翁

清国伝来の二体の霊仏御尊像と共に、《丈六大観世音菩薩像》が祀られている。

《御開山耕雲珍龍大和尚》の「観音堂」創建の趣旨に共鳴した《親松佛巖翁》は、佐渡の御神木とされていた神代杉の大木を切り出し 佐渡 金井町 “本光寺” 奉安の順徳天皇御持仏、国宝《聖観世音菩薩》を原型として“斎戒沐浴” “一刀三礼” の行を以て幾日月を費やし《丈六大観世音菩薩像》を製作し、昭和三年「観音堂」に寄進された。

その間の消息は以下の如くである。

昭和元年《御開山珍龍和尚》（当時大栄寺住職）は、雲水僧二十名を引率して佐渡に巡錫した、其の際、河崎村に居た《佛巖居士》と言う篤行の士が深く《御開山珍龍和尚》に帰依した。

《丈六観世音菩薩像》に就いては不思議な因縁話がある。

原木の神代杉は、往昔《日蓮上人》が佐渡に渡られた時、自ら御手植えされた杉の木で、佐渡では御神体として信仰の対象とされ、およそ八百年の星霜を経て鬱蒼とした巨木であった。

ある夜《佛巖老人》の夢枕に彼の神代杉の精霊が人身に変じて現れ、《佛巖老人》に告げて曰く。

『我は《日蓮上人》の因縁を以て生を得た者である。

願わくは《上人》の生地、安房国に往還致したき望みを持っている。

就いては我が身を以て仏像を刻し安房国に送らるるよう力を添えられたし。』

との事であった。

老人は此の霊夢に深く奇異の思いをなし、早速《御開山耕雲珍龍大和尚》に、そして《佛巖居士》と同じ村の御神木の所有者であった《猪股惣四郎》氏に、それぞれ此の顛末を語ったところ、信仰の篤い《猪股》氏は、すぐさま村を挙げて御身体であった此の神代杉を切り出し、その巨木を《佛巖居士》に捧げた。

《佛巖居士》は、佐渡 金井町 “本光寺” 奉安の順徳天皇御持仏、国宝《聖観世音菩薩》を原型として、信念を籠め“斎戒沐浴” “一刀三礼” の行を以て幾日月を費やし仏像の製作に打ち込んだ。

ようやく完成を見た《丈六大観世音菩薩》は御祀り先として《御開山耕雲珍龍大和尚》の、房州「観音堂」への寄進を申し入れられた。

この様な因縁のある《大観世音菩薩》は、《耕雲珍龍大和尚》導師のもとに村人総員の“開眼”と見送りを受け、佐渡を離れて遙か房州の地に着き、昭和四年、「観音堂」に於いて《耕雲珍龍大和尚》の導師のもと、盛大に“入仏式”が執り行われた。

以降“霊夢”の“精霊の言葉”通り安房国の「観音堂」に永く祀られ、多くの人々の篤い信仰の場となっている。

観音堂 縁起

現在、一般に「震災記念観音堂」と呼ばれ多くの人々の帰依を集めている。
御開山は、新潟県中蒲原郡横越村、専門僧堂として全国的に名高い「大栄寺」の二十九世住職と、安房郡三芳村本織「延命寺」を歴住された、〈佐々木珍龍和尚→耕雲珍龍大和尚禅師〉で、かねて〈佐々木珍龍和尚〉により北条町に建てられていた「禅道会館」後「善導会館」をもって大正十三年に「観音堂」として創建された。
御堂は始め六軒町にあった、その後現在の館山駅前に建てられ、その後現在の海岸近くの中村公園一隅に移された。

創建された趣旨は、大正十二年九月一日に起き、未曾有の大被害と犠牲者を出した〈関東大震災による犠牲者の御霊を慰め〉、且つ又〈世界平和祈願〉の為そして、〈精神教化の一大道場〉たらしめんが為というものです。

御祀されている仏様は、本尊仏として清国伝来の〈聖観世音菩薩〉と、佐渡渡来の〈丈六聖観世音菩薩〉の二体、脇仏として、やはり清国伝来の〈阿難尊者〉、そして三体の〈地藏菩薩〉です。

観音堂御詠歌

泡やとて たつま無き間に 消ゆる身は
同じ蓮の ^{はちす}花の ^{うてな}臺に

上記 観音堂の御詠歌と扁額が有る。

明治天皇の侍従、貴族議員を歴任し、安房の近代化に大きく貢献した〈万里小路通房〉伯爵の揮毫になる扁額です。

御札

日本画壇の代表的な画家、画僧〈岩崎巴人〉先生の描かれた御本尊「丈六大観世音菩薩」の御真影です。

巡礼

大正十四年全房州観音札所御開帳に当たり大開帳が挙行された、以来参拝者多繁。毎年九月一日“震災記念日”には、北条、館山、両町を上げての追悼大行列をなし、萬灯法会を行ない、また記念講演会を開催して年々盛大となったと伝えられている。